

**令和 4 年度
こうめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画・報告書**

第 8 期最終目標

共通の趣味やさまざまな住民主体の活動、日頃の挨拶などを通じて、人と人がつながり、各個人が楽しみを持って健康的に生活できる地域となる。

| 人口 (人) | 高齢者人口 (人) | 高齢化率 (%) | 後期高齢者人口 (人) | 高齢者人口に対する 後期高齢者人口 (%) |
|-----------|--------------|-------------|----------------|-----------------------------|
| 27,313 | 5,977 | 21.9% | 3,250 | 54.3% |

データは令和 5 年 4 月 1 日時点

今年度の到達点

共通の趣味や楽しみをもとにした、地域の自主的な活動がさらに増え、地域の高齢者が趣味をもとに集い、交流を楽しむようになる。

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

| | | |
|----------------|---|-----------------------------|
| 4 年度の 取組の視点 | 課題の解決に向けて丁寧なアセスメントを行い、本人や相談者のできることや楽しみに焦点を当てた社会資源の情報提供を行う。介護保険サービスに限らず、地域の多様な資源を活用した支援につなげる。 | |
| 結果 | 新規相談件数 788 件（前年度 742 件） | 継続相談件数 2,082 件（前年度 1,843 件） |
| | 令和 4 年度は令和 3 年度と比較して相談件数は新規 46 件増加、継続 239 件増加している。相談内容では、介護保険（1327 件）、虐待（344 件）、医療（271 件）、認知症（312 件）が増加している。これらの相談件数の増加の要因としては、コロナ禍で外出自粛が長期間に続き、心身機能の低下（フレイルの進行）や認知症の発症などにつながっていることが考えられる。また、認知症の進行や心身機能の低下に伴う介護者の介護ストレスの増加が虐待の要因になっているケースも見られた。それぞれの課題の解決については、丁寧なアセスメントを実施し、本人の強みを活かした社会資源の情報提供や、介護保険サービスに限らず、集いの場や高齢者施策についての情報提供を行い、多様な地域資源を活用して支援を実施した。 | |

2 権利擁護

| | |
|----------------|---|
| 4 年度の 取組の視点 | 8050 問題や消費者被害、精神疾患等のさまざまな課題が絡んだ相談が増えている。必要な関係機関と連携し、ガイドラインに沿って適切な対応を行う。また、権利擁護についての周知を図るた |
|----------------|---|

| | | |
|----|---|--------------------------|
| | め、地域向けの研修を2回、専門職向けの研修を4回実施する。 | |
| 結果 | 虐待防止ネットワーク（研修、講座等） 5件 （前年度 4件）出席者延べ 31人（前年度 41人） | 権利擁護継続相談件数 49件（前年度 141件） |
| | <p>虐待相談件数は令和3年度は延べ310件だったものが、令和4年度は延べ344件にやや増加している。子からの虐待ケースが多く、その多くに子が何らかの精神疾患を抱えている場合が見られた。精神科の医療機関や保健センター、行政等の各種関係機関と連携し対応を行っている。</p> <p>権利擁護研修会は5回実施し、地域住民向けに1回、専門職向けに4回実施した。</p> <p>地域住民向けの講座はオンラインで実施し、就労している方も参加できるように12:00～13:00の昼休みの時間で実施し、2名の参加があった。内容は成年後見制度の活用について説明した。来年度は講座の名称を一般の方にもわかりやすくすることで参加者が増加するよう工夫する。</p> <p>専門職（介護支援専門員）向けの研修は4回実施し、延べ29名が参加した。毎回事例を通じた勉強会とし、弁護士も参加して実施している。</p> | |

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

| | | |
|-----------|--|--|
| 4年度の取組の視点 | 多様な社会資源を活用したケアマネジメントを支援するため、総合事業や一般介護予防事業等の周知を図る。自立支援・重度化防止に資するよう、必要な社会資源の開発にも取り組む。上記内容を達成するために、ケアマネジャー向け研修を5回（事例検討会2回含む）開催する。 | |
| 結果 | ケアマネジャー向け研修 5回（前年度 5回） 参加者延べ 59人（前年度 93人） | 事例検討会 1回（前年度 2回） 参加者延べ 14人（前年度 25人） |
| | <p>令和4年度は、ケアマネジメント支援研修を5回実施した。各テーマは、「介護予防ケアマネジメントについて」「防災とケアマネジメントについて」「セルフネグレクトへの支援」「介護保険利用者に関する障害福祉サービスについて」「事例検討会」と幅広く設定し、地域の訪問看護ステーション看護師や、墨田区障害者福祉課ケースワーカーに講師として協力していただき、専門的な知識を学んだ。当初事例検討会を2回開催する予定だったが、昨年度のアンケート結果では、障害福祉サービスについて学びたいとの意見が多く、講師の調整が年度途中でできたので、計画を変更して実施した。</p> <p>令和3年度はオンラインでの講座開催を行っていたが、令和4年度は感染対策の緩和に合わせ、ケアマネジャー間の連携促進の目的も含め、人数制限を実施しすべての回を対面で実施した。</p> | |

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

| | | |
|-----------|--|------------------------------|
| 4年度の取組の視点 | 意思決定支援の視点から高齢者本人の意向を尊重するために、本人の強みを活かして、意欲向上を目指した目標を設定し、生活課題の解決を図る。 地域の高齢者と介護予防・自立支援の意識を共有するため、地域住民向けの研修を2回実施する。 | |
| 結果 | プラン件数（自己作成） 1,134件（前年度 982件） | プラン件数（委託） 1,535件（前年度 1,648件） |
| | 令和4年度は自己作成のプラン件数は、令和3年度と比較して、152件増加した。委託でのプラ | |

| | |
|--|--|
| | <p>ン件数が 113 件減少しているため、全体では 39 件の増加となり、ほぼ昨年度と同様の件数となった。ケアプラン作成においては、多様なサービスや地域資源を活用したプランになるよう意識した。また、対応した事例について職員間で振り返りを行うために、月一回 1 時間程度、事業所内でグループスーパービジョンを実施して、本人の強みを活かした目標設定やアセスメント内容について意見交換を実施している。</p> <p>地域住民向けに介護予防・自立支援をテーマにした研修を 3 回実施した。延べ 19 名の地域住民が参加した。内容は、フレイル予防を目的に各回、運動、社会参加、口腔ケアについて理学療法士、作業療法士、歯科衛生士が説明した。実施後のアンケートでは、100%の方が内容を理解できたと回答し、77%の方が今後運動や地域活動に参加したいと思ったと回答した。</p> |
|--|--|

5 認知症支援

| | | |
|----------------|--|--|
| 4 年度の 取組の視点 | <p>地域の住民に向けて、認知症の方を支えるために具体的な対応方法等の普及啓発を行い、地域の対応力向上を目指す。具体的な対応方法を記載した広報誌を 2 種類発行する。</p> <p>本人・家族が安心して生活できるよう、本人の意思決定支援、家族支援を実施する。ピアカウンセリングを主体とした認知症家族介護者教室を年 6 回開催する。</p> | |
| 結果 | <p>認知症サポーター数 開催数 8 回 163 人 (前年度 開催数 16 回 230 人)</p> | <p>家族介護者教室 6 回 (前年度 6 回) 参加者延べ 30 人 (前年度 27 人)</p> |
| | <p>認知症サポーター養成講座は、地域住民、介護事業所、病院、小学校児童を対象に幅広く実施した。また、認知症の普及啓発を目的に、認知症普及啓発事業として講座を 7 回 (認知症サポーター養成講座を除く) 実施した。講座は地域住民を対象に、認知症予防や認知症の方への対応方法の啓発等をテーマに開催し、延べ 63 名が参加した。実施後のアンケートでは 72%の方が講座の内容を「十分理解できた」「理解できた」と回答し、認知症への理解につながったことが確認できた。</p> <p>家族介護者教室ではピアカウンセリングを行い、家族の介護負担の軽減や本人の支援を行った。実施後のアンケートでは、会に参加する目的は、認知症の対応方法の知識習得や悩みの共有等があったが、目的の達成度については、38%の方が達成できたと回答した。</p> <p>広報誌による周知については、みまもりだよりとセンターだよりを活用し、各広報誌で 1 回ずつ、認知症の対応方法の紹介や認知症に関する事業の紹介を行った。</p> | |

6 地域ケア会議

| | | |
|----------------|--|-------------------------------|
| 4 年度の 取組の視点 | <p>個別会議で抽出された地域課題を推進会議において、地域住民・地域の専門職と共に検討し、圏域別第 8 期地域包括ケア計画と連動させながら、具体的な取り組みにつなげていく。</p> <p>地域ケア個別会議を 6 回、推進会議を 5 回実施する。</p> | |
| 結果 | <p>地域ケア個別会議 8 回 (前年度 5 回)</p> | <p>地域ケア推進会議 4 回 (前年度 8 回)</p> |
| | <p>地域ケア個別会議は、2 か月に 1 回の頻度で定期的に 6 回開催した。毎回 1 事例の課題を検討し、個別課題から見える地域課題の抽出も行った。42 事業所から延べ 44 名が参加した。事例提出は圏域の居宅介護支援事業所に協力を得て行い、医師会、歯科医師会、薬剤師会等の医療関係者と介護関係者が集まり、介護予防・重度化防止の観点から意見交換を行った。実施後のアンケートでは、「多職種連携の大切さを再認識した」「普段の業務では接することが少ない職種の方と会</p> | |

| | |
|--|--|
| | <p>議ができ有意義だった」等、医療と介護の連携に関する意見があった。地域課題については、「地域の集いの場への移動支援が必要」「栄養に関する普及啓発が必要」等具体的な課題が抽出された。地域ケア推進会議は4回実施され、27名が参加した。地域ケア個別会議で抽出された地域課題も参考にし、専門職、地域住民が共に地域課題について検討した。具体的に新たな取組みにつながった例としては、専門職同士の連携を深めるため、メールで地域情報を共有する取組みがある。</p> |
|--|--|

7 生活支援体制整備事業

| | | |
|-----------|---|--|
| 4年度の取組の視点 | <p>共通の趣味や楽しみを通じた集いの場を拡充し、地域住民が自主的に運営できるよう支援していく。また、集いの場同士が連携し、地域の高齢者の交流が活性化することを目指す。</p> <p>新たに趣味の集いの場を2か所設立する。</p> | |
| 結果 | <p>交流・通いの場 36件（前年度 31件）</p> | |
| | <p>総合相談や生活実態調査訪問で把握した地域の高齢者の趣味や特技等の強みを活かしていくため、多様な趣味の場の設立を支援した。令和4年度は新たに「園芸サークル」と「盆踊りサークル」の2つの集いの場が設立された。どちらも、すみだ福祉保健センターを活動場所として、自主的な活動を継続することができている。</p> <p>地域包括ケア計画の取組みで作成している町会ごとのウォーキングマップは、新たに1地域で作成され、同地域に新たなウォーキンググループが令和4年11月に設立された。月2回の頻度で継続的に自主運営ができている。</p> <p>集いの場同士の連携のため、令和5年3月に自主グループ交流会を開催した。6団体の集いの場運営者6名が、運営に関する課題等について意見交換するとともに、お互いの活動内容を紹介して交流した。</p> | |

8 見守りネットワーク事業

| | | |
|-----------|--|-------------------------|
| 4年度の取組の視点 | <p>圏域の高齢者を対象に実態把握を600件行う。実態把握においては、高齢者本人の強みに視点をあて、地域の活動につながるよう働きかけを行い、住民同士のネットワークの構築を進める。</p> | |
| 結果 | <p>実態把握調査訪問 578件（前年度 401件）</p> | <p>安否確認 11件（前年度 5件）</p> |
| | <p>実態把握調査では、課題の聞き取りだけでなく、趣味活動等の強みも聞き取った。強みに合わせた地域活動等の情報提供を行い、高齢者が地域の活動につながるよう働きかけを行った。生活支援体制整備事業で趣味の集いの場を立ち上げているため、連携し、集いの場と高齢者のマッチングをこれからも行い、趣味活動や集いの場での活動を通じた住民同士のネットワーク構築を目指していく。</p> | |

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2… 介護予防の推進 |
| 3… 介護サービスの充実 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

| 見守ろう 支えよう つなごう | | 施策の方向性：1, 5 |
|--|---|---|
| 課題（現状） | <p>○地域活動が活性化するために、町会や老人クラブ等と地域高齢者のさらなるつながりが重要である。</p> <p>○マンションのオートロック化等により安全面は向上しているものの、異変の気づきが遅れることがある。</p> <p>○転入してきた高齢者は、地域の社会資源情報が少なく、地域とつながりにくい状況がある。そのような高齢者に、地域の情報提供やつながりを作る支援が必要である。</p> | |
| 4年度 の取 組み の指 標と 方向 性 | 到達点 | <p>○実態把握調査を600件実施する。調査では本人の強みを聞き取り、本人の趣向に合った地域活動の紹介を行うことによって、新たに地域活動に参加する人を増やす。</p> <p>○地域の高齢者が地域活動に参加しやすいように、活動についての情報を周知することができる。</p> <p>○住まいの関係者との連携を強化し、高齢者の課題解決がより早急に対応できるようになる。</p> |
| | 投入資源 （人・場所 等必要な資 源） | <p>○実態把握調査 （人的資源）高齢者みまもり相談室職員</p> <p>○住まいの関係者との連携強化 （人的資源）高齢者みまもり相談室相談員</p> |
| | 活動（4 年度 の取 組 内容） | <p>○実態把握調査で得られた、高齢者の強みについての情報を分析し、高齢者の交流に必要な地域活動の場の設立を支援する。</p> <p>○既存の地域活動の情報が、地域の高齢者に届くよう、情報提供方法を工夫する。この取り組みによって、活動に参加する高齢者が増える。</p> <p>○住まいの関係者との連携では、集合住宅に在住の高齢者に異変が生じたときに、住まいの関係者の相談先として、こうめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室を周知していく。</p> |
| | 活動に 対 する 実 績 の 指 標 | <p>実態把握調査数</p> <p>新たに設立した集いの場等の地域活動数、地域の住民同士の声掛けによって地域活動やイベントに参加した人数</p> <p>住まいの関係者からの相談数、みまもり便り配布先数・配布枚数</p> |
| | 結果の 評 価 方 法 | <p>○高齢者が地域とつながることができているかを評価するために、地域活動やイベントに参加した方にアンケートを実施し、参加したきっかけを調査する。</p> |
| 実 施 結 果 | <p>○実態把握調査は578件実施した。調査においては、高齢者の強みを聞き取り、地域活動の情報提供を積極的に実施した。コロナ禍で活動を休止していた団体が活動を再開するとともに、新たに2か所の趣味の集いの場、1か所のウォーキングでの介護予防の集いの場が設立され、地域の活動に参加する高齢者が増えている。</p> <p>○高齢者の強みを分析し、盆踊り等の地域のお祭りに参加している高齢者が多く存在することがわかった。盆踊りサークルはこの分析をもとに設立している。</p> <p>○地域の高齢者への情報提供については、高齢者の参加につながりやすくするために、チラシの配</p> | |

| | |
|------------|--|
| | <p>布だけでなく、地域住民と顔の見える関係性を持った方（医療介護の専門職、民生委員、こうめ高齢者支援総合センター・みまもり相談室職員）から直接の情報提供がされるよう情報の周知を行った。具体的には、地域住民向けを中心とした見守り講座を107回実施し、社会資源の情報提供や地域住民との顔の見える関係性作りを行った。</p> <p>○住まいの関係者との連携はみまもりだよりの配布を通じて、関係者とのコミュニケーションを継続している。連携先はマンション管理人や不動産業者等37件となり、令和3年度と比較して2件増加している。みまもりだよりの配布先も全体で209件となり、昨年度と比較して11件増加し、配布部数は3713部で、令和3年度と比較して170部増加している。</p> |
| 成果（到達点の達成） | <p>○こうめ高齢者支援総合センター・こうめ高齢者みまもり相談室が主催する地域住民向けの事業のうち、参加のきっかけについてアンケートで調査した事業は16事業あり、事業全体の参加者162名中、73名（45%）の方が、チラシを見ての参加や知人からの情報提供で参加していた。チラシや知人からの情報の発信が高齢者の参加につながっている。</p> <p>○マンション管理人や不動産関係者から安否確認等の相談が令和4年度に8件あった。早期対応につながっており、対応時にはスムーズに関係者の協力を得ることができている。</p> |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 一歩踏み出し、皆と交流を深めよう | | 施策の方向性：1, 2 |
| 課題（現状） | <p>令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、</p> <p>○外出を控えている理由として、「足腰の痛み（57.6%）」「トイレの心配（19.5%）」が多く回答されている。</p> <p>○運動器の機能低下リスクや転倒のリスクのある高齢者が他の圏域に比べて多く、身近な地域で活動できる場所や機会をさらに増やしリスクを減らしていく必要がある。</p> | |
| | 到達点 | <p>○新たに2町会でウォーキングマップを作成し、高齢者に介護予防活動への参加を促す。既存の歩こう会への参加者数を10%増やす。</p> <p>○気軽に休めるベンチを新たに3か所設置し、高齢者の外出支援につなげる。</p> |
| 4年度の取り組みの指標と方向性 | 投入資源（人・場所等必要な資源） | <p>○町会ごとのウォーキングマップ作成、ウォーキンググループの立ち上げ支援</p> <p>（人的資源）高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員、地域リハビリテーション支援事業療法士</p> <p>（ネットワーク資源）マップ作成対象の町会関係者、民生・児童委員、地域住民、企業、店舗、地域の介護・医療の専門職、既存の「歩こう会」（向島四丁目北町会歩こう会、オシアゲ歩こう会）</p> <p>○こうめイスプロジェクト</p> <p>（人的資源）高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員、工務店（ベンチ作成イベント講師として）</p> <p>（物的資源）ベンチ作成用キット</p> <p>（ネットワーク資源）地域住民・企業・商店等（ベンチ設置場所の提供）、うめわかイスからつながるプロジェクト（管理設置協力）</p> <p>（場所）すみだ福祉保健センター（作成イベント実施）</p> |

| | |
|--------------|--|
| 活動（4年度の取組内容） | <p>○完成後の自主的な「歩こう会」の活動につながる可能性が高まるため、ウォーキングマップを作成するにあたり、町会関係者や地域の高齢者等の多くの方が参加するよう工夫する。</p> <p>○ウォーキングマップを作成済み町会の周辺地区でウォーキングマップを作成することで、歩こう会に参加する高齢者を増やす等、既存の社会資源を活用した取り組みになるよう工夫する。</p> <p>○地域での体力測定会を実施し、集いの場に参加することでの介護予防効果を参加者にフィードバックし、活動意欲の向上につなげる。</p> |
| 活動に対する実績の指標 | <p>○ウォーキングマップ作成地域数、歩こう会開催数・参加者数、その他の高齢者の外出につながるイベントの開催数・参加者数、体力測定会実施数</p> <p>○ベンチ設置箇所数、ベンチ作成イベント参加者数</p> |
| 結果の評価方法 | <p>○体力測定を継続的に実施し、活動に参加することによって心身機能の向上が得られているか検証する。</p> <p>○総合相談支援において、外出が困難な方に対し、理由を聞き取る。さらに、その情報を分析し、必要な対応策を検討する。</p> |
| 実施結果 | <p>○ウォーキングマップは押上三丁目伸成町会地域を対象に作成した。同地域では、伸成歩こう会がR4.11.24に設立され、町会の役員の方を中心に自主的に活動を継続している。開催頻度は月2回（第2・第4木曜日）であり、令和4年度中は8回実施され、毎回10名程度の参加があった。</p> <p>○押上三丁目伸成町会では、R5.3.9に同地域の町会会館を利用して体力測定会を1回実施した。伸成歩こう会に参加している方や、参加していない地域の高齢者が15名参加した。測定内容は、最大歩行速度、握力、片脚保持時間、5回立ち上がり速さ、体重、身長を計測し、基本チェックリストや、社会参加、うつに関するアンケートを実施した。今後も半年に1回の頻度で体力測定会を開催し、経過を追っていく。</p> <p>○ベンチの設置では、現在17か所設置されており、昨年度と比較して6か所増えている。設置していただいた方にベンチの利用状況をモニタリングすると、「誰でも座れることがわかっているので安心する。もっと増やしてほしい」「病院の行き帰りで一息つけている」などベンチを利用している高齢者の声を聞くことができた。また、「ベンチに座っている高齢者に小学生が挨拶するようになった」などベンチを通じた交流が生まれていることも確認できた。</p> |
| 成果（到達点の達成） | <p>○町会ごとのウォーキングマップ作成については1地域にとどまった。作成を計画していた他の1地域からは、コロナ感染への不安から高齢者が集まってマップを作成していくことへの不安があり、実施につながらなかった。来年度に改めて作成する方向性で検討している。</p> <p>○既存のオシアゲ歩こう会の参加者は令和4年度18回実施し、275名が参加した。オシアゲ歩こう会はR3.10.21から活動を開始しており、月2回の頻度で継続している。令和3年度と比較して実施回数が違うため、平均参加者数で比較すると、令和4年度は15.3人と令和3年度の9.5人と比較して62%参加者が増加している。</p> <p>○押上三丁目伸成町会で実施した体力測定会には15名が参加した。実施後のアンケートでは、測定結果について「思った以上にいい結果だった」20%、「思った通りの結果だった」53%と自身の肯定につながる意見が多数を占めた。また、定期的に体力測定会を実施するにあたり、半年後も参加したいかとの問いには、87%の方が参加したいと回答した。今回の参加者のうち、地</p> |

| | |
|--|---|
| | 域活動に参加している方が 14 名いたので、今後も継続して測定を行い、地域活動が心身機能の維持・向上の一要因になっているのか経過を追っていく。 |
|--|---|

| | | |
|--|--------------------------------------|--|
| 人生100年楽しく学ぶ | | 施策の方向性：1, 2, 3, 4, 5 |
| 課題（現状） | | <p>○高齢者がいきいきと暮らしていくため、多種多様な趣味や生きがい活動を、身近な地域で行うことができる機会が必要だが、住民主体のグループ活動のうち約半数が運動の場であり、趣味活動等の場も増やしていく必要がある。</p> <p>○健康に暮らし続け、介護が必要になっても安心して生活ができるように、健康や介護に関する講座が開催されている。</p> |
| 4年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性 | 到達点 | <p>○趣味活動の集いの場を2か所新設する。既存の集いの場は住民主体での運営ができるよう支援を継続する。</p> <p>○生きがい活動の拡大として実施した、写真コンテストやこづめ地区作品展を継続して実施。運営に住民も参画できるよう工夫を行う。</p> <p>○オンライン講座を継続して実施。地域の高齢者が気軽に参加できる講座にしていく。</p> |
| | 投入資源 （人・場所 等必要な 資源） | <p>○新たな集いの場の設立支援 （人的資源） 設立する集いの場の中心となる高齢者、こづめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員、 （ネットワーク資源） 町会関係者、民生・児童委員、地域の介護専門職（主任ケアマネジャー等）、 （場所） すみだ福祉保健センター（活動場所・ネットワーク先）、町会会館等（活動場所）</p> <p>○写真コンテスト・作品展の開催 （人的資源） 作品応募者、町会関係者、民生・児童委員、審査員として地域の写真家、運営に協力していただく地域の高齢者、こづめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員 （ネットワーク資源） 高齢者施設、町会会館、小学校、すみだ福祉保健センター</p> <p>○学びの場（オンライン講座） （人的資源） こづめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員、医療専門職・介護専門職、高齢者施設職員</p> |
| | 活動（4 年度 の 取 組 内 容） | <p>○実態把握調査等で得た地域高齢者の趣味活動等を分析し、新規に設立する集いの場が、趣味活動を通じた交流の場となるよう工夫する。</p> <p>○すみだ福祉保健センターが実施している講習等と連携し、講習後のサークル活動が地域の活動となるよう、講習の開催内容等の企画提案を行う。</p> <p>○写真コンテストや作品展は継続して実施し、運営に地域住民がより参加できるよう、開催場所や方法等を工夫する。</p> <p>○こづめオンライン講座では地域高齢者が気軽に参加できるよう周知するとともに、高齢者のICT技術の向上に取り組む。</p> |

| | |
|-------------|---|
| 活動に対する実績の指標 | <p>新規集いの場の設立数、集いの場参加者数</p> <p>写真コンテスト・作品展への出展数・見学来場者数・開催場所数・運営に関わった地域住民人数</p> <p>オンライン講座開催数、参加者数（全体人数、高齢者個人で参加した人数）</p> |
| 結果の評価方法 | <p>○趣味活動での集いの場への参加者を分析し、年齢層や性別、在住地域等、参加する高齢者の広がりを調査する。</p> <p>○学びの場や集いの場に参加した高齢者が生きがいを感じることができているかアンケート調査を実施する。</p> |
| 実施結果 | <p>○新たな趣味の場は、「盆踊りサークル」「園芸サークル」が新たに設立されている。「盆踊りサークル」は、隔週火曜日 13:00～15:00 の日程で、すみだ福祉保健センターにて開催され、毎回 20 名ほどの参加があり、これまで 24 回実施している。主催は地域住民であり、場所の予約から、実施まで全て自主グループ化している。「園芸サークル」は、メンバー 10 名で活動を開始した。活動内容は、すみだ福祉保健センター敷地内の花壇で花を育てる活動を行っている。今後は建物の屋上を活用して、野菜なども栽培していく計画をするなど、活動は拡大している。</p> <p>○こうめみんなの作品展では、地域住民や集いの場から 93 点の作品が提供された。高齢者だけではなく、児童館からの作品出展があり、作品を通して多世代の交流が生まれた。展示はすみだ福祉保健センター内で令和 4 年 11 月 8 日（火）～11 月 12 日（土）まで 5 日間実施した。見学者は素晴らしいと感じた作品の紹介掲示物にシールを貼り、作者と見学者が交流できる工夫を行った。</p> <p>○こうめみんなの写真コンテストでは、26 点の作品が応募された。見学者からのアンケートは 27 名分回収され、それぞれの作品の感想を記載していただいた。記載された感想については、それぞれの応募者に伝え、作品を通じた交流が生まれるよう工夫した。</p> <p>○令和 4 年度、こうめオンライン講座は、第 3 金曜日の 15:00～16:00 の日程で 12 回実施した。延べ 161 名が参加した。地域の施設に入所されている方が施設で参加する参加者の割合が多かったが、個人で参加される方も増えてきており、高齢者本人から参加の方法についての問い合わせがある。高齢者が気軽に参加できるよう、参加方法の問い合わせには丁寧に対応した。</p> <p>○盆踊りサークルでは、圏域外からの参加者も多く存在している。サークル開催前には、参加者どうしおしゃべりをするなど、趣味を通じた人のつながりができている。また、園芸サークルでは、認知症の男性の方が参加されており、植物への水やりなど、ご自身ができる役割を担っている。その男性に参加しての感想を聞くと、「毎回とても楽しみにしている」と生きがいにつながる意見が聞かれた。また、その男性が参加できるよう、サークルの主催者は個別に予定を連絡するなど、対応を工夫している。</p> |
| 成果（到達点の達成） | <p>○盆踊りサークルでは、圏域外からの参加者も多く存在している。サークル開催前には、参加者どうしおしゃべりをするなど、趣味を通じた人のつながりができている。また、園芸サークルでは、認知症の男性の方が参加されており、植物への水やりなど、ご自身ができる役割を担っている。その男性に参加しての感想を聞くと、「毎回とても楽しみにしている」と生きがいにつながる意見が聞かれた。また、その男性が参加できるよう、サークルの主催者は個別に予定を連絡するなど、対応を工夫している。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 医療と介護の連携 | 施策の方向性：3, 4 |
| 課題（現状） | <p>○自立支援・重度化防止の視点でのケアプラン作成が進んでいる。さらに検証をすすめ、利用者のいきいきとした生活につなげていく必要がある。</p> <p>○医療関係者と介護関係者との連携が深まっている。この連携をさらに強化し、専門職による切れ目ないサービスを提供できる体制を目指す必要がある。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| 4年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性 | 到達点 | <p>○地域ケア個別会議で検討した個別課題・地域課題について、具体的な地域の取り組みにつなげる。</p> <p>○地域活動に参加、協力する医療専門職や介護専門職が増える。</p> <p>○ケアマネジャーと医療専門職の意見交換の場として、地域ケア個別会議・推進会議、勉強会等を開催する。</p> |
| | 投入資源 (人・場所 等必要な資 源) | <p>○地域ケア個別会議、推進会議 (人的資源) こうめ高齢者支援総合センター高齢者みまもり相談室職員 (ネットワーク資源) 医療専門職・介護専門職、町会関係者、民生・児童委員、地域高齢者・住民、企業、店舗、 (場所) すみだ福祉保健センター、町会会館 (推進会議開催場所)</p> <p>○ケアマネジメント研修会 (人的資源) 医療専門職、介護専門職、こうめ高齢者支援総合センター職員 (場所) すみだ福祉保健センター</p> |
| | 活動 (4 年度 の 取 組 み 内 容) | <p>○地域ケア個別会議では、医療専門職と介護専門職が個別課題について意見交換し、共有や対応策の検討を行う。結果は推進会議にて、地域住民も交えて検討し、具体的な取り組みにつなげていく。</p> <p>○ケアマネジメント研修会での医療と介護の連携では、講義だけでなく、双方向の意見交換ができるよう内容を企画し、顔の見える関係性が構築できるようにする。</p> |
| | 活動 に 対 する 実 績 の 指 標 | <p>地域ケア会議開催回数、出席者人数、出席者の属性、検討した個別課題、地域課題の内容、具体的な対応方法につながった事例</p> <p>ケアマネジメント研修会開催回数、参加人数、参加職種、研修会で意見交換した内容</p> |
| | 結果 の 評 価 方 法 | <p>○医療と介護の連携について、地域の医療専門職・介護専門職にアンケート調査を実施し、連携状況を調査する。</p> <p>○具体的に医療と介護が連携して対応した事例の報告</p> |
| | 実 施 結 果 | <p>地域ケア個別会議は、2か月に1回の頻度で6回開催した。毎回1事例の課題を医療介護の専門職が検討し、個別課題から見える地域課題の抽出も行った。42事業所から延べ44名が参加した。地域課題については、「地域の集いの場への移動支援が必要」「栄養に関する普及啓発が必要」等具体的な課題が抽出された。</p> <p>地域ケア推進会議は4回実施され、27名が参加した。地域ケア個別会議で抽出された地域課題も参考にし、専門職、地域住民が共に地域課題について検討した。その結果、専門職同士の連携を深めるため、メールで地域情報を共有する新たな取り組みが、令和5年1月から始まっている。</p> <p>また、栄養に関する普及啓発の課題について、今年度初めてフレイル予防教室を開催し、歯科衛生士を講師に迎え、口腔・栄養についての講座を地域住民向けに開催し、7名の方が参加した。</p> |
| 成果 (到 達 点 の 達 成) | <p>○地域ケア個別会議での専門職へのアンケート結果では、「各方面の専門の方の意見を聞くことができ勉強になる。」「多職種連携の大切さを再認識した。」「専門職のみなさんの話が今後の支援の参考になりました。」等、医療と介護の連携の大切さを認識した意見が見られた。</p> <p>○こうめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室への医療機関からの相談件数は令和4年度510件あった。令和3年度は319件であり、昨年度と比べて191件増加している。</p> | |

| | | |
|--|---|--|
| 認知症の方も安心できる地域づくり | | 施策の方向性：1, 2, 3, 4, 5 |
| 課題（現状） | <p>○認知症サポーターが地域に増えている。さらに地域に認知症の理解を広げるため、幅広い世代、企業等へむけて、認知症サポーター養成講座の開催が必要である。</p> <p>○地域に認知症高齢者の相談が増えており、本人や家族が、地域でいきいきと暮らし続けるために活動・活躍できる場所を増やす必要がある。</p> <p>○令和元年度の在宅介護実態調査によると、介護者が抱える不安の中で、認知症の症状への対応方法を不安に感じる介護者が20%と最も多くなっている。</p> | |
| | 到達点 | <p>○認知症家族会でのピアカウンセリングを継続し、家族の介護負担感を軽減する。</p> <p>○認知症の方や家族とともに、認知症の方が地域でいきいきと暮らしていくための活動を具体的に検討する。</p> <p>○認知症サポーター養成講座や認知症の方への具体的な対応方法の周知を行い、認知症の方や、その家族が安心して地域で過ごせる環境を強化していく。</p> |
| 4年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性 | 投入資源 （人・場所 等必要な資 源） | <p>○認知症サポーター養成講座・認知症普及啓発講座の開催 （人的資源）こつめ高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員 （ネットワーク資源）地域の学校、介護・医療事業所</p> <p>○認知症家族介護者教室の開催 （人的資源）こつめ高齢者支援総合センター職員、 （場所）すみだ福祉保健センター</p> |
| | 活動（4 年度 の 取 組 内 容） | <p>○認知症家族会ではピアカウンセリング機能を強化し、家族との意見交換ができる場となるよう内容を工夫する。</p> <p>○認知症普及啓発や認知症サポーター養成講座等、認知症に関する全般的な啓発だけではなく、より具体的な対応方法等、日頃の生活で活用できる知識の啓発になるよう内容を工夫する。</p> <p>○より幅広い世代の地域住民に、認知症に関する情報が周知されるようオンラインの活用等、情報発信方法を工夫する。</p> |
| | 活動に 対 する 実 績 の 指 標 | <p>○認知症サポーター養成講座開催数、認知症サポーター登録者数、</p> <p>○認知症家族会開催数、認知症家族会参加者数、家族会で出された家族からの意見の内容、</p> <p>○認知症普及啓発の開催数、参加者数、</p> <p>○地域住民が対応した具体的な事例、認知症に関する広報誌の発行種類数、認知症に関する情報発信方法の工夫内容</p> |
| | 結果の 評 価 方 法 | <p>○地域で対応した認知症の方の事例の報告</p> <p>○認知症の方が地域でいきいきと暮らしていくための取り組み内容の報告</p> |
| 実 施 結 果 | 結果（事 業 の 実 績） | <p>○認知症サポーター養成講座は、地域住民、介護事業所、病院、小学校児童を対象に8回実施した。163名の方が認知症サポーターとなった。認知症サポーター4名が地域の集いの場「ほんわかカフェ」でボランティア活動を開始し、集いの場に参加している認知症の方の対応を行っている。</p> <p>○認知症の普及啓発を目的に、認知症普及啓発事業として講座を7回（認知症サポーター養</p> |

| | | |
|------------|--|---|
| | | <p>成講座を除く) 実施した。講座は地域住民を対象に、認知症予防や認知症の方への対応方法の啓発等をテーマに開催し、延べ63名が参加した。実施後のアンケートでは72%の方が講座の内容を「十分理解できた」「理解できた」と回答し、認知症への理解につながったことを確認できた。</p> <p>○認知症家族介護者教室ではピアカウンセリングを行い、家族の介護負担の軽減や本人の支援を行った。実施後のアンケートでは、会に参加する目的は、認知症の対応方法の知識習得や悩みの共有等があったが、目的の達成度については38%の方が達成できたと回答した。</p> |
| 成果（到達点の達成） | | <p>○認知症に関する相談件数は、226件（新規相談含む）あり、そのうち地域からの相談件数は10件だった。令和3年度は地域からの相談件数が7件（全体の相談件数は189件）であり、3件増加している。</p> <p>○地域住民が関与した具体的な事例では、本人と地域の友人と一緒にこゝめ高齢者支援総合センターに来所し、本人の認知症状の進行について相談したケースがあった。本人と友人の関係は地域の集いの場で知り合った友人である。本人は独居で、生活に支援が必要な状況であるため、介護保険の申請やサービスの導入を行いたいとの相談内容だった。その後、同席した友人が協力し認定調査や医療受診をすることができた。地域での見守りネットワークが効果的に発揮されたケースである。</p> |